

日時：2007年6月3日(日) 16時～18時

会場：名古屋大学東山キャンパス 工学部IB館015号室(F会場)

司会：佐藤弘明(浜松医科大学)

今村薫(名古屋学院大学)

パネラー

赤澤威(高知工科大学) 人類史運命の分かれ目：

旧人ネアンデルタールと新人ホモ・サピエンスの交替劇

嶋田義仁(名古屋大学) 乾燥地からみた人類文明

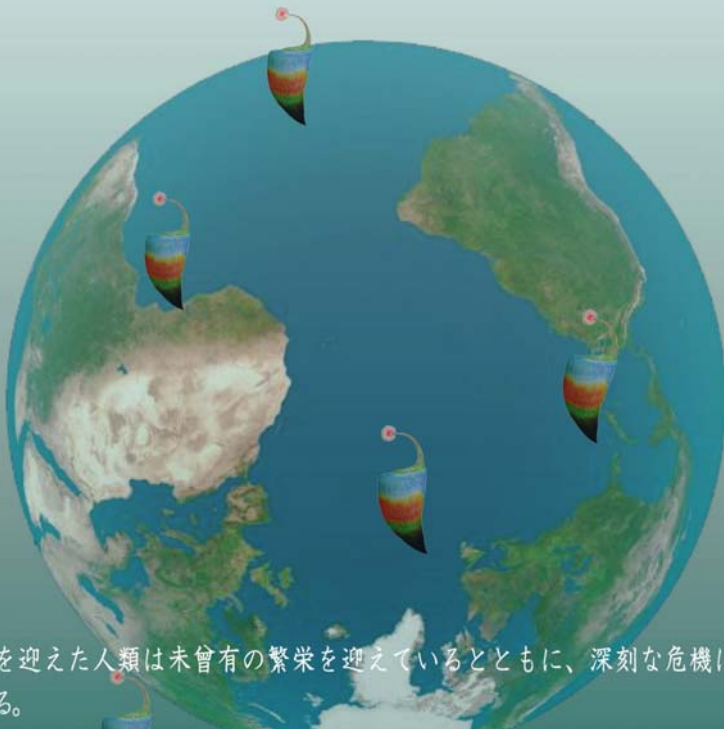
市川光雄(京都大学) 人類の生活環境としての熱帯雨林：

歴史生態学的視点から

煎本孝(北海道大学) 人類の進化と北方適応

竹沢泰子(京都大学) ゲノム時代の人類の差異の表象：

文化人類学から見たDNAと集団



21世紀を迎えた人類は未曾有の繁栄を迎えているとともに、深刻な危機にも直面している。

人口増大と経済発展にともなう、資源の枯渇、都市問題、地球環境の破壊と汚染、そしてそれにおそらく付随していると見られる地域紛争の広がり、などである。そんな中、文化人類学はなにをなすのか、このように自問した結果、あらためて人類の歴史を振り返ってみよう、ここに人類が立ち至ったのは何故なのか、われわれは人類の運命を変えることができるのか、できないのか、このたかだか数万年くらいの間に地球上に増殖に増殖を重ねるに至った人類とは何なのか、文化人類学会会員が隣接諸分野の研究者や市民とともに考えてみるきっかけとなるようなシンポジウムを企画しました。

連絡先：41nbj@jasca.org(日本文化人類学会第41回研究大会準備委員会)

*シンポジウムのみ参加の方は、別途参加費をいただきます。

二十一世紀地球人類の危機と人類史

日本文化人類学会第四十一回研究大会 於名古屋大学
一般公開シンポジウム

